

市政報告

仙台市議会議員
伊藤 ゆうた



ご意見・お問い合わせは
✉ info@itoyuta.com

一般質問などを通じて、継続的に市政の問題点を追及し、提言を行っている。▲

- 経済環境委員会委員
- 文化芸術・スポーツ振興調査特別委員会委員
- 会派名：市民の会

218億円→646億円 まだ膨らむ？

音楽ホール等複合施設計画

止まらない整備費膨張を

ストップ!
STOP!



▲仙台市が進める音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設について、整備費の高騰に市民から疑問の声が上がっている。

音楽ホールと震災メモリアル拠点の複合施設について、整備費の大幅な増加と計画の妥当性を質しました。

当初218億円とされた整備費は、350億円を経て**548億円へと約2.5倍に膨張**しています。2026年1月には、備品費それから関連工事費用を含めて646億円になる試算を市は公表しました。

まず、令和7年第4回定例会 一般質問において、「地下掘削37億円や振動対策44億円がなぜ当初見込みに反映されてこなかったのか」と指摘し、見込みの精度と説明責任を厳しく問いました。特に振動対策については、「**地下鉄の影響は立地上認識できたはずであり、調査の遅れが結果として追加費用につながった**のではないかと質しました。

これに対し市は、地下掘削について「高さ制限への対応として一定程度想定していたが、具体的規模は設計の中で確定した」と答弁しました。

また振動対策については、「立地選定時から可能性は認識しており、令和5年11月の調査を踏まえ対策の必要性を明示し、その後の詳細検討により免震構造が妥当と判断した」と説明しました。

さらに私は、「44億円の対策が必要な場所が本当に適地だったのか」と問い、立地判断の妥当性を質しました。これに対し郡市長は、「青葉山エリアは文化・学術資源が集積する本市の象徴的な場所であり、拠点としてふさわしい」と答弁しました。

整備事業費の見込み

項目	基本構想(R5.7)	基本設計終了(R8.3)	備考
①建設工事費	336億円	582億円	建築費：548億円 外構工事費：11億円 土壌汚染対策費：23億円
②設計・監理費	14億円	30億円	基本設計費：3.9億円 実施設計費：16.7億円 技術協力委託費：1.7億円 施工監理費：7.9億円
③関連整備費	—	34億円	文化財調査、CM業務、備品費、展示製作費など
合計(①+②+③)	350億円	646億円	

※今後の物価上昇分除く

音楽ホール等複合施設計画 整備費高すぎ!

見込みの甘さと説明責任を問う!



▲地下掘削約37億円や免震対策約44億円など、新たな費用負担が明らかになった。

音楽ホール等複合施設の整備費が当初218億円から350億円、さらに548億円へと大幅に増加した問題について、経済環境委員会において継続的に質疑を行いました。2026年1月には、事業整備費が646億円になる試算を市は公表しました。本事業は市民生活や財政に長期的な影響を与える重要なプロジェクトであり、その妥当性と説明責任が厳しく問われています。

まず、2025年11月21日の経済環境委員会においては、整備費の急激な増加の要因について集中的に質疑しました。市は資材費や労務費の高騰を主因と説明しましたが、地下掘削約37億円や免震対策約44億円など、後から追加された費用の存在が明らかになりました。**これらは本来、立地選定や初期段階で十分に検討されるべき事項であり、結果として見込みの甘さが整備費の膨張を招いた**と言わざるを得ません。また、ライフサイクルコストも示されていないことから、事業全体の費用像が不透明である点も指摘しました。整備費の上限設定についても質しましたが、市は、具体的な上限額を示ませんでした。



▲整備費の上限について、市からはいまだ示されていない。

次に、12月15日の経済環境委員会では、事業の進め方そのもの、特に市民への説明責任と合意形成の在り方について質疑しました。**市民説明会では多くの参加者が発言を希望したにもかかわらず、時間を理由に途中で打ち切れ、**残りは意見募集フォームで対応するという運用がなされていました。しかし、対面での質疑と一方的な意見提出は本質的に異なり、市民の疑問や不安に十分に応えるものとは言えません。私は、**質疑が尽きるまで丁寧に対応することが信頼構築の前提**であると指摘し、説明会の継続開催や改善を求めましたが、市は追加開催の予定はないとの姿勢を示しました。

さらに同委員会では、資料提出の要求を行うとともに、設計者である藤本壮介氏を参考人として招致し、直接説明を求めるべきであると提案しました。しかし、他会派からは本会議での質疑で足りるとの意見が出され、委員会としての参考人招致は実現しませんでした。**重要な公共事業であるにもかかわらず、専門的見地からの直接的な検証機会が確保されなかった**ことは大きな課題です。



◀建築家の藤本壮介氏の参考人招致は実現していない。

本事業は、**市民一人当たり約5万円の負担に相当**する規模であり、決して軽視できるものではありません。整備費の妥当性、情報公開の徹底、そして市民との対話による合意形成が不可欠です。今後も引き続き、事業の透明性と説明責任を強く求めるとともに、市民の理解と納得が得られる形での事業推進となるよう、厳しくチェックしてまいります。